令和5年度

鳴門市大麻中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①言語活動を積極的に取り入れた授業内容の工夫改善
②特別支援教育の手法を生かした指導の工夫
③学校と家庭との連携による家庭学習の習慣化

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭　宮本かおり	委員　校長：豊﨑　宏　　教頭：堀川昌宏　　教務主任：岩野貴暢 1学年主任・研修主任：清水幸代　　2学年主任：竹内佳代子 3学年主任：井原ﾟ司　　人権教育主事：吉原信作　　生徒指導主事：柳澤宏

校長
豊﨑　宏

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

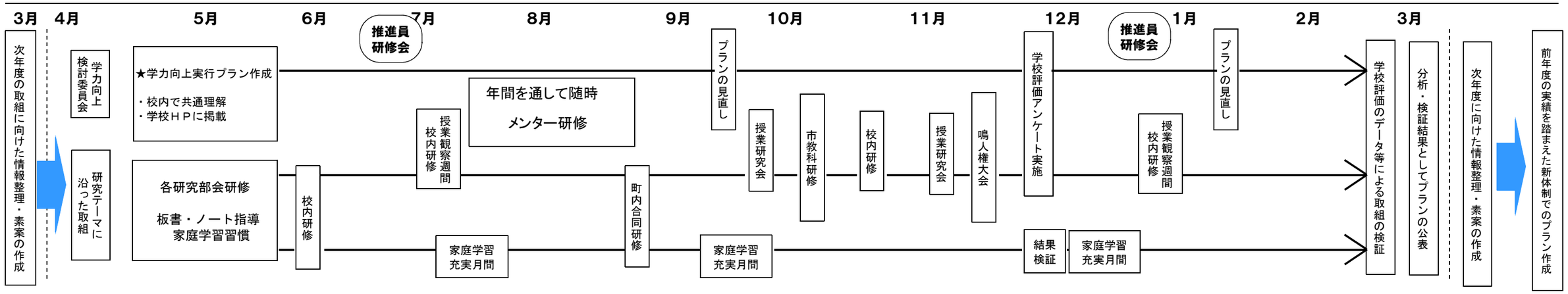
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業では，落ち着いた態度で学習できている。基礎・基本的な課題に対しては，意欲的に取り組むことができる。 ●学習内容を確実に習得できるまで繰り返し復習する習慣がついていない生徒が多く，学力の二極化傾向が見られる。	・チャイム着席をはじめ，学習規律を守るとともに，落ち着いた態度で集中して授業に取り組むことができる。 ・基礎・基本的な事項について，繰り返し粘り強く取り組む。タブレット等を利用することで，学習に対する興味・関心をもち，意欲的に取り組むことができる。 ・授業1時間の「めあて」を知り，目標をもって授業に取り組むことができる。 ・読書に親しみ，知識・教養を高めることができる。	・授業準備をしてチャイム前着席をする等学習規律の徹底。 ・セミナー学習や自主学習の提出物のチェックを行い，継続的に取り組めるよう支援する。 ・基礎・基本的な内容の小テストを実施し，知識の定着を図る。 ・授業での本時の「めあて」を生徒に掲示する。 ・授業をユニバーサルデザイン化し，スモールステップを意識し，生徒に「わかる」「できる」を実感させるようにする。 ・読書で得た知識・教養をアウトプットできる機会を設ける。	・チャイム着席等の規律は守れているのでこれからも続けさせたい。 ・ステップアップテストや全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ，更に，基礎的・基本的な内容の定着を図りテストの得点率アップへとつなげさせたい。そのために，生徒が習得した知識・技能をテストでどう生かすかを考えられるよう，これまでのテストの過去問や復習プリントを効果的に活用した授業を教員が意識して展開していきたい。	・学習規律の徹底を図り，生徒は落ち着いて学校生活を送り，　授業にも真面目に取り組み，人の話もよく聞けている。宿題の提出率もよく，学校評価アンケートでは，9割の生徒が宿題をきちんとしていると答えた。 　授業の UD 化やスモールステップ化，実際のテストに即した練習問題の活用等を意識した授業実践をすることにより，8割以上の生徒が，基礎・基本的な計算や漢字の力が身についたと，学校評価アンケートで答えた。	・学習規律の徹底の継続。 ・学力の二極化傾向の改善に向けて，基礎基本的な内容を反復練習を継続的に取り入れ，基礎学力の定着を図る。 ・各教科の授業において，過去問等の有効活用を図る。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○指示内容や問題解決の手順が明確に示されたことに対しては，意欲的に取り組むことができる。 ●資料の中から必要な情報を取り出したり，条件にそって文章にまとめたりすることに課題がある。また，答えがわかっていても自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。	・課題解決のため，資料や情報を効果的に活用することができる。 ・自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・学習し，できるようになったことや分かったことを実際の生活にいかし，誰かのために貢献することができる。 ・新聞に興味・感心をもち，内容をまとめて文章表現ができる。	・授業における言語活動の充実を図るため，ホワイトボードや付箋，タブレット等を活用し，班活動や学級全体の中で自分の考えや思いを表現できる場面を多く設ける。 ・　身につけた知識・技能を活用して課題を解決するような問題の作成を研究し，授業や定期テストで出題する。 ・読解力をつけるために，新聞を活用し，心に残ることをまとめ文章表現する機会を設ける。	・ステップアップテストや全国学力・学習状況調査等の結果から，記述式の問題の正解率や回答率が低いことが分かる。生徒たちが，自分の考えや思いを言葉にすることに苦手意識を持たないよう，もっと言語活動の充実化を図りたい。そのために，朝学習の時間に読解力を養成するためのドリルを取り入れる。	・朝学等の時間に「読み方レスキュー」というドリルを各学年の程度に合わせて取り入れ，読解力の向上に努めた。 読解力が高まると，人の話や，問題文の意味が分かり，そこから物事を考えたり，判断，表現する力も共に向上していく。学校評価アンケートでは，「グループで話し合う学習が好き」と答えた生徒が8割を超えた。テストでは，記述式の問題の無解答が少しずつ減ってきている。	・朝読書の時間や配布される子ども新聞，あゆみ等を活用して文章を読む，書く活動を充実させる。 ・様々な場面で，ホワイトボードや付箋，タブレット等を活用し班や学級全体に向けて，気持ちや考えを表現する機会を多く取り入れる。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○決まりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り，学習にも前向きに取り組んでいる。また，「志」をもち「あたりまえ」の質を高めようとする生徒が多い。 ●与えられたことに対しては誠実に取り組むことができるが，自ら課題を見つけて主体的に取り組むことは苦手である。	・目標をもち，それを達成するための計画，実行，振り返りをし自己の成長のために主体的に努力を積み上げることができる。	・「志」を設定し，やり抜く目標をもたせる。 ・家庭学習の定着を図るため，課題提出を徹底し，更にはその質を高めるよう，個々に指導する。 ・家庭学習強化週間を設定し，学年毎の目標時間をクリアできるよう声かけをし，家庭学習の充実を支援する。 ・授業観察週間を設定し，生徒の主体的な学びを引き出すための技術や手立てを他の教員から学んだり，情報交換したりして授業力を磨き合う。 ・「めあて」を提示し，何ができるようになるかを丁寧に説明するとともに，主体的な学習態度を強化するための意識づけ，価値づけを継続的に行う。	・１回目の授業観察週間で，教員同士が互いの授業技術を学び合うことができた。そこで，「生徒の学ぶ意欲は高く，教員の授業も素晴らしいが，なかなかテストの得点率につながらない」という課題が分かり，その解決を図りたい。	・定期テストに向けて，校区の小学校と連携して家庭学習強調週間を設定することにより，家庭でも，早い段階から将来の進路を意識した学習への取組が継続してできている。 ・２回の授業観察週間を重ね，生徒はもちろん，教師側にも意識の変化が現れ，インプット重視の授業から，アウトプットも大切にした教材研究や手法の模索などに力を入れるようになってきている。それに伴い，学校評価アンケートでは，「先生が分かりやすく教えてくれる」という項目が昨年度より伸びている。分かる喜びを主体的な学習へと繋げていきたい。	・年度初めに設定する「志」を達成するための途中の振り返りやめあての改善・追加等をキャリアパスポートを活用して行う。 ・生徒の「主体的な学び」に繋がり，更に得点率向上をはじめとする学力向上を図るために，教員間で互いに学び合う授業観察週間の有効なあり方を探究する。。

令和5年度　学力向上ロードマップ